

う見方をしている。

例えば効率化としてどんなことが考えられるか。今回改定では、重度の意識障害患者について障害者施設等病棟、特殊疾患病棟では、医療区分3以外は医療療養病棟入院料と同じ取り扱いがされることとされた。ただし、本年3月末時点で入院している患者は医療区分3と見なす措置

がセットされている。一種の激変緩和措置である。

この激変緩和措置を解消し、純粋に医療区分3であるかどうか問うものに変更した場合、どうだろうか。ある意味では障害者施設等入院基本料で診るべき患者をはっきりさせるものであり、単純に該当患者比率と人員配置をクリアすれば良いわけで

はない環境整備が進むことは必至であろう。

本稿の締めくくりに、次回改定の焦点の一つとなろうとしている障害者施設等入院基本料に関連して1つ資料を紹介したい。そこでは、疾患管理の重度性とともここまでのキメ細かな診療とケアの提供がされている。

障害者施設等算定病院と対外広報のあり方示唆する札幌ライラック病院

紹介する広報誌は、北海道札幌市豊平区を中心に札幌ライラック病院（本庄恭補院長・167床このうち一般病床131床、療養病床36床）などを展開する医療法人北志会（志田勇人理事長）が作成した『人工呼吸器と人工透析をご使用の患者様へのご案内』と題したパンフレットだ。

パンフレットは、障害者施設等入院基本料を届け出ている札幌ライラック病院の特徴と診療姿勢、それに裏打ちされた日常の看護、リハビリ、食事・栄養サポートなどがどのような形で行われているか——人工呼吸器や人工透析を使用している患者（・家族）、そして急性期病院など紹介元医療機関に伝える目的で作成されている。

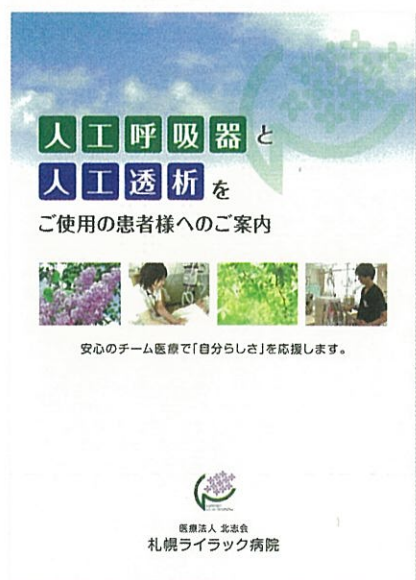
人工呼吸器や人工透析使用の患者への広報というと、人工透析機器が何台といったハード面の記載をイメージしがちだが、札幌ライラック病院が作成したパンフレットは本質的にそうした構成とは別のものと

なっている。

一言で言うと、どのような医療・ケアを提供しているのか、また、したいと考えているのか、ソフトに裏打ちされたハードを含む日常の実践を伝える構成となっており、それが大きな特徴だ。

例えば人工呼吸器装着下での立位訓練やベッド上での嚥下内視鏡検査、口腔摂取を少しでも可能としていく試みなど日常的なケアが紹介されている。立位訓練ではギャジアップにとどまらず、車いすに移乗し生活行動範囲を広げていくことにつながっている。そうした中から「ご要望に応えながら、個別性に合わせ喜ばれるケアを実践しています。」と紹介されている。

パンフレットでは柿の実をつけた枝を持つリハビリ・スタッフと呼吸器搭載車椅子に乗った患者さんのスナップ写真が掲載されている。農家出身の患者さんの「柿の実をもぎたい」という希望を受けて病院近くの



札幌ライラック病院発行『人工呼吸器と人工透析をご使用の患者様へのご案内』

柿の木の群生地まで院外散歩した時のものだ。「柿の実を目にし、手にした時の患者さんの喜んだ表情が忘れられない」というスタッフの強い希望を受けて選ばれたスナップだという。生活行為性に結びつくリハビリテーションの提供への転換を打ち出した今回改定を先取りする実践をこ

「安心・信頼・満足」をモットーに専門職

人工呼吸器 Ventilator

脳血管障害、低酸素、発熱後脳症、神経難病、呼吸器疾患などで様々な由來で人工呼吸器を装着している患者様を受け入れております。
離脱が難しい患者様から離脱を目指す患者様まで幅広く対応しております。

医師

さまざまな症状の患者様を受け入れます。
人工呼吸器装着の患者様を診るのは複数の診療科の医師9名です。急性期治療後の患者様を手厚い診療で受け入れます。

看護

90床が人工呼吸器対応。
平成19年の受け入れ以来、人工呼吸器の準備はゼロであり、全合非常用電源搭載なのでご家族の安心感を高める様々な実績があります。

素早い対応で患者様を見守ります。
札幌市内でいち早く人工呼吸器装着の患者様を受け入れた経験を持って、誰やかなケアを心がけています。

機器

呼吸療法認定士は5名在籍、尿の排出を促したり、呼吸をしやすくするための呼吸リハビリテーションに力を入れており、人工呼吸器の履脱訓練も実施しております。また患者様の状態に合わせて、歩行の練習や車椅子への乗車を促進、さらには嚥下機能評価に基づいた摂食機能訓練にも力を入れております。

リハビリ

呼吸療法認定士は5名在籍、尿の排出を促したり、呼吸をしやすくするための呼吸リハビリテーションに力を入れており、人工呼吸器の履脱訓練も実施しております。また患者様の状態に合わせて、歩行の練習や車椅子への乗車を促進、さらには嚥下機能評価に基づいた摂食機能訓練にも力を入れております。

ご要望に応えながら、個別性に合わせ 喜ばれるケアを実践しています。

意思伝達 サポート

パソコンを使用したコミュニケーションサポート。
意思伝達が難しい患者様のためにパソコンを使用したコミュニケーションの確立にも取り組んでいます。



外出 サポート

症状に応じた院外散歩の実施。
症状に応じて専用の車椅子を使用した院外散歩、短時間外出も実施しています。外に出て季節を感じ楽しみながら散歩が出来ます。



食事 栄養 サポート

多職種が連携しながら、個人に合わせた食事提供。
摂食機能訓練では、嚥下や咳ごしなど患者様の嚥下状態にあわせた副食の提供を行っています。また入院生活に食の楽しみを持たせていただけるよう、食事制限のある患者様にも同食に選択メニューを導入しております。



入浴 サポート

患者様の状態に合わせて安心のシャワー浴。
「浴槽に入れないのでせめてシャワーを」、最も多く寄せられるご要望のひとつです。入浴は患者様の状態に合わせて実施。シャワーが難しい方には手浴・足浴でリフレッシュしていただきます。



ここに見ることができるのではないだろうか。障害者施設等病棟は寝たきり病棟ではないのだというメッセージが伝わってくる。

意思伝達サポートという形でパソコンを使用したコミュニケーション・サポートの取り組みにも注目したい。

これは意思疎通の工夫によって患者さんの意志を（もっと）受け止めることができないかという意識性の中から育ってきた取り組みだ。患者の状態に応じた呼吸療法認定士5名による呼吸リハビリテーションの提供、多職種連携による食事栄養サポー

トの実践。患者状態に合わせて安心のシャワー浴ができる簡易型人工呼吸器を使用した専用シャワー室などはそうした発想の中から生まれた。患者・家族から要望の高いサービスであることに気付く医療機関も少なくないのではないだろうか。

パンフレット編集を担当したのはMSW中心に構成されている同病院の地域連携部。作成したパンフレットは、既に約600部が道内の医療機関に送付されており、それを受けて北海道内各地の医療機関へ訪問を行っているという。広報誌作成にと

どまらず、広報誌を活用した医療機関訪問という営業活動がセットされていることも参考となるのではないだろうか。

なお、日常ケアを保証する院内研修の紹介などについては号をあらためて行う予定。パソコン利用により意思伝達ができることを確認できたことによる感動的エピソードについてもその折に紹介したい。

【パンフレットに関するお問合せ】
札幌ライラック病院地域連携部
Tel 011-812-8822